

2020/1/11/SAT-14/MON

天孫降臨菜の花ツアー13

菜の花マラソンと鹿児島島の 100・200・300 名山

山の虫クレマントクラブ（略称 YMCC） 川原健一

同行：山崎、森浜牧代、水口、菅野

佐藤美恵子、風見、川原薫

下窪（菜の花マラソン参加）

2003 年から 2014 年まで 12 回催行した菜の花ツアーを 6 年ぶりに再開した。2019 年の木津川マラソン打ち上げの席で過去のツアー参加者からもう一度行きたいねとの要望を受けてのこと。

1 月 11 日 SAT 晴れ

高千穂峰(200)1,573.6m

せっかく鹿児島まで来たのだからこの地の名山を時間の許す限り登ろうとのことで、明日の指宿菜の花マラソンを走る前にまずは高千穂峰を目指す。昨夜は宮崎カーフェリーの 2 等船室の一角に陣取りささやかに結団式を行った。広々としたツーリストスペースは人も少なく、ゆっくりと眠れたので体調は万全だ。

宮崎駅前から予約のレンタカーを回送し、宮崎港を出発。宮崎自動車道・高原 IC から県道 223 号線を西進。御池の畔から見る高千穂峰が美しい。



御鉢から見る高千穂峰

高千穂河原の駐車場から登山開始。霧島神宮古宮に参拝し、冬枯れの樹林帯を抜けると紅い溶岩と砂礫の登山道が御鉢まで続く。振り返ると錦江湾上の雲海に桜島が浮かぶ。吊尾根状に見えた御鉢の稜線を踏むとその噴火口壁越しに高千穂峰が見えた。

御鉢から少し下ると霧島岑神社元宮 1,408m。ここから登り返し。頂上直下で天の逆鉾の柄を見るとじきに山頂に至った。

山頂からの景色は抜群だ。今日は新燃岳は穏やかな景色の中に静かに横たわっている。そのずっと左手の森の中、水蒸気がしきりに立ち上がっている所、そこには日本の秘湯番付西の大関・新湯温泉が湧いている。下山したら入りに行こう。

新湯温泉は硫化水素が濃く、二人以上でないと入浴は許されない。露天風呂があり、混浴となっており、8 人で賑やかに浸かることができた。



露天風呂に浸かるの囃

新湯温泉から溝辺（鹿児島空港）IC、鹿児島市内から海岸沿いに池田湖へ。マラソン 15km の上り坂を越し、開聞山麓ふれあい公園ロッジにチェックイン。前夜祭をして就寝したことは言うまでもない。

高千穂河原 11:00

12:30 高千穂峰

13:30 高千穂河原

1 月 12 日 SUN 晴れ

菜の花マラソン 42.195km

矢筈岳 358.8m
魚見岳 202.8m
知林ヶ島 0.0m

この日はマラソンと山行に分かれた。山行チームは開聞岳北方約 5Km にある岩混じりの山・開聞岳の展望台と言われる矢筈岳を登り、指宿陸上競技場北側の魚見岳へ車で移動。陸協にゴールするランナーや錦江湾の眺めを楽しんだ。また魚見港・田良岬の約 1km 東方の錦江湾上に浮かぶ知林ヶ島が大潮の引き潮で陸続きとなる good timing を得、満ち潮と競争しながら島に渡ったと言う。

マラソンチームは全員完走。汗を流しに山川砂むし温泉に行く。波打ち際の砂浜で全身を熱い砂で埋めてもらい、温熱を味わう。フルマラソンで酷使した筋肉がゆっくりと解されていくようだ。15分も埋まっているとたっぴりと汗をかいた。塩湯に浸かり汗を流して入浴完了。暮れなすむ海岸から夕日を浴びた開聞岳を楽しんだあとロッジに帰った。

山行チームは帰着しており、はや良い気分となっていた。この日も完走パーティで打ち上げ、遅くまで歓談した。



菜の花マラソン会場にて

1月13日 MON 晴れ

開聞岳(100)924m

桜島(200 湯之平展望台)373.8m

昨日のマラソンの筋肉痛を癒すためクーリングダウンならぬリハビリ登山を行う。

開聞岳は登山口から山頂まで、時計回り

に一回転すると到達する。90度の辺りで朝陽が東シナ海に反射し、金色に輝く。270度の辺りでは開聞岳の影が西方山麓に伸び、その山頂は東シナ海に届かんばかりだ。灌木隊を抜けると360度一回転、開聞岳の岩の山頂に着いた。

北方に展望が開け、その中央に池田湖が陣取っている。少し雲がかかるが眺めは抜群。一番高い岩の上で数人がポーズを取る。ナントカバエする格好だ。池田湖をバックに全員で記念撮影し下山開始。



開聞岳山頂にて

昨日菜の花を走ったと思われる人たちが幾人か登ってくる。かつてはマラソンの途中でコースを逸れて登り、またマラソンを続ける人達がいいた。大会事務局が自重を促した。気持ちはわかるが、ランナーとしては決められたことには従いたいものだ。そんな人たちが今、登っているのだろう。

登山口 07:30

09:30 開聞岳山頂

11:30 登山口

開聞岳登山口から昨日のマラソンコースを逆に辿り桜島へ向かう。フェリーに乗り、船内の名物うどんを啜る。海越しに桜島を眺める。ああ帰ってきたなという感慨を禁じ得ない。今日は桜島の眺めが特に素晴らしい。剛(長瀬)のオラビ像を回り湯之平展望台へ向かう。

桜島は200名山だが活火山のため山頂に近づくことは許されず、湯之平展望台が最接近できる場所となっている。ここに来たら登頂したと言ってよいだろう。桜島山麓

の一般道には大きな噴火があると噴石が飛んで来てフロントガラスが割れる話はよくある。接近できるからといって、むしろ最接近できる場所だからこそ、安全とは決して言えない。山頂からここより遠い場所に避難シェルターが幾つも設えられているのがその証拠だ。



桜島フェリーから桜島を見る

古里温泉は廃業となったビルが朽ち、有村の桜島展望台の売店も客がなく寂しい限り。実家近くの温泉場で名物の唐揚げを仕入れる。垂水市役所近くのスーパーで今晚の仕入れをし、ここだけは活況の財宝温泉で入湯。露天風呂から見る桜島は鹿児島から見るそれとは異なり、少し優しい眺めが楽しめる。冷たい風が吹く中、せっかくなので財宝展望台へ。今朝登った開聞岳が錦江湾の向こうで夕焼けに映えていた。

桜島に渡ってからだったが KZM が頻りに聞く。

「噴火したら地元の人たちはどうするんでしょう？」

「普通に生活しているよ！」

「??」

フェリーで島に渡ったので、島から離れるにはもう一度フェリーに乗るものと思込み、どうやら彼女はまだ桜島の島内にいて、噴火したらどうしようと心配していたようだ。島は大隅半島と陸続きで、最早島を離れていると知り安心したとのこと。別に島内にいても大した心配はないのだが、。

猿ヶ城溪谷にあるもりの駅「垂水」のコーテージは古民家風に造られた宿泊施設。この日も盛大に酒肴を広げ、歓談した。

1月14日 TUE 曇り

高隈山・御岳(300)1,181.7mm

高隈山系は私が高校時代に親しんだ山であることから大阪労山の方々に随分紹介し、登ってもらった。何回登ったか最早定かでないが、山頂から見る景色はいつ見ても素晴らしいので、今日も皆さんに登っていただくことにした。

五合目まで車で入り、TV塔へ続く階段登りから登山が始まる。マラソンから2日も経つのでランナーモランの後遺症は癒えた、ようだ。八合目の水場を過ぎるとやがて祓川から来る東尾根道(廃道)に合流し、山頂へはもう一息。北西へ少し進むと丸い山頂が目に入り、わずかで登頂した。



高隈・御岳山頂

曇り空だが白山、横岳、妻岳、オオノガラ岳等の高隈の山々、遠く錦江湾越しに桜島、開聞岳等を望むことができた。バエ写真撮って全員満足し、下山した。

五合目登山口 08:20

09:10 御岳山頂 09:30

10:00 五合目登山口

菜の花ツアー、次はいつのことか？

できれば体の続く限りやってみたいものだが、。

END